

“アナグマ洞穴”からの物語

- 1 自治体名 遼寧(liao ning)省環境保全ボランティア協会、遼寧省実験中学校
- 2 発表者 徐 瀟 (xu xiao)
- 3 活動名 “アナグマ洞穴 (どうけつ)”からの物語
- 4 活動期間 2006年2月～現在
- 5 活動場所 遼寧省瀋陽 (shen yang) 市法庫(fa ku)県 “アナグマ洞穴”ダム
- 6 活動参加人数 19人

7 活動をはじめた経緯及び発表要旨

2005年の秋、私は省環境保全ボランティア協会の方々から“アナグマ洞穴”に関する話を聞き、初めてそこが奇妙な鳥世界であることを知りました。

“アナグマ洞穴”ダムは瀋陽市北西部150kmのところのところに位置し、法庫 (fa ku) 県秀水河子 (Xiu shui He Zi) の付近にあります。そこは青空が広がり、水が清らかで、また多くの水草と魚が生息しています。これらはみな渉禽類 (しょうきんるい) と水鳥たちの大好きな食べ物となっています。

こんな不思議な世界を発見したのは遼寧省環境保全ボランティア協会副会長の周 海翔 (ZHOU Hai Xiang) さんでした。調査によれば、そこには絶滅に近い国家一級保護動物である東方鶴 (トウホウヅル) とソデグロヅルがいます。

私は“法庫アナグマ洞穴ダム”というキーワードで、インターネットを通じて検索しました。

そこで、恐ろしい検索結果がありました。法庫アナグマ洞穴ダムでは大量の稀有 (けう) な水鳥が発見された後、一部不法捕獲者はそれを狙ってダムに侵入しました。

そしてもっと恐ろしいこともあります。毎年、水鳥産卵の時期にダム附近の住民はその卵を盗みに行き、盗んだ卵を食べたり売ったりしています。

そこで、2005年10月から、遼寧省環境保全ボランティア協会は「鶴及び他の水禽 (すいきん) の重要遷移地であるアナグマ洞穴ダム湿地の保護」(Protection of badger sub hole wetland which is white crane and other aquatic birds' important migration ground) というプロジェクトをスタートさせました。

私たちは協会の方々と一緒にダムへ行き、現場調査をし、現地の住民に鳥類に関する知識を伝え、2万枚あまりの宣伝ビラを配りました。また70種類以上、3万羽の鳥類について観察しました。調査中、稀有なシロガシラと白鳥も目にしました。私たちは鳥類の美しい姿を楽しみながら、鳥の種類や数量及び特徴について観察し記録しました。

私たちの活動と宣伝は大きな反響を呼び、世界自然基金会の方々にも注目されています。

これからもこの活動を続けなくてはならないと思い、またいくつかの提案もあります。例えば、渡り鳥が渡ってくる時期を禁漁期に設定すること、荒地を開拓し耕地にする行為をやめさせること、現地の子供たちに環境教育の授業を受けさせることなどです。

私たちは努力し続ければ、“アナグマ洞穴”はきっと水鳥の楽園になると思います。水鳥が人類と共生できる時代はきっと来ると信じています。